一身田の新聞

発行
一身田地区
社会福祉協議会

今後一身田はどう変わるか！

津市総合計画後期基本計画案が発表される

津市の将来図を描く「津市総合計画後期基本計画」（案）が発表された。25年度から29年度までの5年間。

一身田は農業や本山を中心にした観光、環境問題、周辺地域での諸施設の建設などで大きく様変わりする要素を含んでいる。中勢バイパスの完成、総合スポーツ施設の着工、河芸町三行にできる「道の駅」。また、「都市再生整備計画」による町並み保存問題等々。

一身田地区連合自治会会長森錦一氏のレポートを記載する

津市の憲法ともいえる総合計画後期基本計画案がこのほど発表された。規模などどちらかといえば中途半端であった今までの体育施設が、この計画案で大きく全面に押し出された格好だ。つまり、今まで多目的公的競技ができなかった施設が、このことにより〝開花〟した格好だ。それに、オリンピック女子レスリング金メダリスト吉田沙保里選手の名前を拝借し総合施設が「サオリーナー」と命名されたことによってこの体育館は全国的に名を広めた。

また、公式サッカーが開催できる用地につき大里地区内の山林を候補にあげているが、この候補地については、排水に問題があり、数年前から一身田自治会連合会の強い反対が表明されており、目下、白紙の状態である。

津市基本計画　一身田はどう変わる?!
一身田だけの情報やお便り
特別寄稿　ふるさと新聞の森さん

豊野団地の自主防災会活動を再開

豊野野団地や志登茂団地では住民による自主防災の気運が高まっている。以下、豊野団地の安島潔氏のレポートを紹介する。

豊野団地自主防災会は、平成13年に組織化されたが、これまでは継続的に活動することが難しかった。

東日本大震災を受け、組織の見直しと体制の確立のために、自治会が主体となって6自治会から委員1名を選出して組織の立て直しを計り、自主防災組織として規約と組織体制を明確にした。

規約改正として1年交代から3年以上継続可能案が豊野団地の連合自治会総会で承認された。

啓蒙活動として、津市危機管理課防災室の講師による勉強会を開催。備え付け消火器のチェックを行い、期限切れや不具合品の取り替えを行った。実務訓練として、本年度、豊野団地の各自治会長と防災委員の会議を4回持った。

10月21日に呼び出し訓練・消火訓練・簡易担架の組み立てと救出訓練・AEDによる蘇生訓練・炊き出し訓練を参加者130名で行った。この訓練には津北消防署と一身田消防団に応援を要請した。

役員会は毎月1回定期的に開催されている。今後は、これらの訓練などを一層改善して豊野団地の防災力を高めていきたい。

10月24日住民130名が参加して　防災訓練を行った

高田保育園新園舎の起工式行われる

完成は来年の4月予定

高田保育園完成予想図

高田保育園（園長栗眞恵光氏）は、11月14日、高田福祉事業関係者、設計・施工関係者、地元の自治会長を来賓に迎え、新園舎建設の起工式を行った。同協会会長の常磐井氏、設計事務所の藤川氏、施工主の(株)鴻池組の早氏が代表園児約40名が見守るなかで鍬入れ式を行った。

高田保育園は昭和48年現在地に建てられた。当時は瀟洒な白亜の建物であったが、老朽化や園児数の増加により手狭となっていた。少子化や幼保一体化（子ども園）、待機児童の解消問題など様々な問題を抱えての船出となる。

「明日を担う子ども達に仏教精神を基とした教育、保育を行うためには、より広い場所で、より安全で、のびのびとした環境が求められている」と、栗眞園長は語る。

新園舎は、スーパーぜにや前の旧慈光院跡地に敷地面積4，279㎡、建物面積1，024㎡で現園舎の4倍の広さとなる。懸案となっていた駐車場や狭い運動場問題が一気に解消される。広い土地を得たことから園児による野菜や草花作りなどより食育教育にも力を入れる。園児数は定員90名から定員110名となる。一部2階建て、総工費2億4，000万円、完成は平成25年4月予定。

閉館中の高田会館

全面改装　7月オープン予定

長く親しまれていた高田会館（旧高田青少年開館）は、高田本山の組織改革と耐震化の遅れにより現在閉館されている。

会館は、昭和48年、青少年の健全育成を目的にホール、レストラン、売店、宿泊施設を兼ね備え、（財）日本船舶振興会の補助金を得て建てられた。

高田本山宗議会が改装計画を認可したことにより、工事はお七夜が終わった後、すぐに取りかかり、6月末日に完成引き渡し予定となる。（本山関係者）

建物は2階建て、1階には新たに温浴施設機能を備えた風呂を作り、地域住民も利用できる。売店やレストランなどの運営や管理は民間会社に委託し、新しい方法で行う。

1／20日・2／3日

銀幕に残る一身田寺内町映画上映会を開催

一身田寺内町観光振興懇話会（会長　中西万喜夫氏）は、平成25年1月20日、2月3日高田会館ホール（旧高田青少年会館）で一身田レトロ映画祭を開催する。（後援　高田本山）

一身田寺内町は、昭和初期から戦後まもない頃に時代劇映画のロケ地として頻繁に撮影が行われ、阪東妻三郎や大河内傳次郎、長谷川一夫、嵐寛壽郎、田中絹代など当時の銀幕のトップスターが幾度となく訪れた。

ロケ地として最適であったのは、長い土塀や環濠、戦火に遭わず残った古い街並みが舞台に似つかわしく、また、津市で一番最初に鉄道が敷かれたこともあり京都にあった日活、大映、松竹などの撮影場から2時間程で来ることができたことが考えられる。（一身田寺内町シネマップ）。

映画看板職人として活躍され、「現代の名工」にも選ばれた津市安濃町在住の紀平昌伸氏の映画看板制作の苦労話や映画に関わる楽しい話もある。

映画上映は1月20日「無法松の一生」。2月3日「丹下左膳余話百万両の壺」。

寺内町ロケ地案内や映画解説も行う。

観覧申し込み要領

希望者は必ず往復ハガキで応募。先着300名を招待する。

回覧板では12月15日〆切となっているが別途対応する。

詳しくは、津市スポーツ文化振興部文化振興課　電話（229）3250

ご存じですか

一身田観光振興懇話会

一身田寺内町と高田本山が共に「観光の町寺内町」をもっと沢山の方々に散策して頂けるように工夫を凝らしている会である。

今年度の主たる事業は、レトロ映画祭。第1回目は野外映画会を8月に行った。第2回目・3回目はそれぞれ1月20日と2月3日に映画会行う。

4回目は3月31日に高田本山御影堂でFM三重公開コンサート（25弦箏奏者　中井智也氏）を企画している。

また、小看板を随所に取り付け、ほっとガイドの皆さんに活用して頂いている。

高田本山、自治会、婦人会、商工振興会、ほっとガイド会、町の有志、津市観光課、文化課等のメンバーで構成されている。

しん坊君が全国デビュー

七夕まつりや盆踊り、寺内町まつりなどで大活躍の一身田商工会のマスコットキャラクター「しん坊」君が全国デビューを飾った。しん坊君は平成19年生まれの男の子。本名は高田新一君。一身田のイベントはもちろん津、伊賀など県外にも出歩くヤンチャな子どもである。そのしん坊君が「ゆるキャラグランプリー2012」に参加した。

11月25日に埼玉県羽生で開かれたゆるキャラサミットには、全国47都道府県から865体が参加。みごと647位？！に入った。津市からは「しろもち」君や「ゴーちゃん」など5体が参加した。

みんなの便り

親子凧づくりしませんか

一身田地区社会福祉協議会（会長　望木幹雄氏）は、お年寄りと子ども達とのふれあい、地域の元気づくりの一環として「一身田元気づくり凧揚げ大会」を来年２月10日午前９時から身障者センターグランドで行う。今回でこの大会は４回目となり、一身田の冬の風物詩として定着してきた。

前一身田小学校校長の坂井田先生の指導で老人会や自治会が協力する。

凧の制作は来年１月20日（日）午前９時～一身田小学校体育館で、同２月３日（日）一御田会館（時間未定）で行う。「親子のふれあいや地域住民とのコミュニケーション作りに凧づくりに参加しませんか」と、老人会や自治会は呼びかけている。尚、子どもだけの参加もＯＫである。参加賞や優秀作品賞も用意している。詳しい事は回覧板で連絡する。

老人会もガンバッテいます

一身田地区老人クラブ連合会（会長　中村征義氏）は、第一、第二、第三、第四、第五、大古曽、中野、上津部田、豊野、桜町の10地区、約７００人を抱える会である。今年の主な活動は春・秋の旅行、新年の初詣、なばなの里バスを利用しての旅行は大変な人気があり、参加者も多かった。

また、社会福祉協議会主催の盆踊り大会、敬老のつどい、親子凧揚げ大会にも積極的に協力している。

公民館主催の寿大学には毎月、５０人を越える会員が参加して学習している。さらに、今年は、津警察署の交通安全運動に協力して市内パレードに参加したり、６５才以上の方の家へ邪魔して交通安全を呼びかけた。

また、女性部が中心となって８８才以上の方々の自宅を訪問している。

調査登録のお礼とお願い

一身田地区民生委員児童委員協議会（会長　福田勝二氏）は、１０月下旬～１２月初旬に災害時要援護者登録とひとり暮らし高齢者調査を行った。この調査は、津市の福祉政策課と高齢福祉課からの依頼によるもので、津市民生委員児童委員連合会が調査・登録を行っている。登録については、万が一の場合に円滑な情報伝達や災害時に自力避難に困難が伴う事が予想される方が、必要な支援を受けるために個人情報を登録している。また、ひとり暮らし実態調査では、戸籍上は一人でも同一敷地内または隣家に親族がいる場合は対象外となる。

民生委員には守秘義務があり、預かった大切な個人情報を漏らすことはない。来年以降も継続する予定。

一身田婦人会です一緒に活動しませんか

一身田婦人会は月１回本部役員８人で会議を行っています。津婦連の会長会議でその月ごとの行事の流れを役員全員で意見を出し合い役割分担を決めています。婦連の行事はもちろん、地域の行事も数多くあり、人員の動員が悩みの種です。地区の役員さん、会員の皆さん更なるお手伝いをお願いします。

こんにちは「しともおはなしの会」です

月に一度、日曜（または土曜）の午前、志登茂会館において、４人のメンバーで行っています。今年３月に誕生しました。

なつかしい絵本や新しい絵本、アニメでは知っていても身近な人からは語られることが少なくなった「むかしばなし」などを小さい子どもたちとたのしんでいます。ピアニカに合わせてむかしばなしにちなんだ歌や、「津（一身田）のうまいもんのうた」なども歌っています。大人の方も大歓迎、読み手、語り手も募集しています。応援にきてください。

連絡先　志登茂第３自治会　広瀬玲子　電話（２３２）６８６９

一身田寺内町の館

一身田寺内町の館は、寺内町の伝統文化や文化財を守り、歴史的な町並みを伝えていくと共に、市民及び地域の各団体のコミュニティーの場として平成14年11月開館した。

今年創立10周年を迎え、入館者は１０万９，０００人余を越えた。

11月18日に寺内町まつりに合わせて記念式典を行った。一身田の文化の発信拠点として期待が高まる。

特別寄稿「今も昔も変わらぬ町」

三重ふるさと新聞社長　森　昌哉　一身田在住

私が一身田に住むようになったのは今から28年前、20歳の時でした。中野のアパートの一室を借り、親元から独立して暮らすようになったのです。

当時の一身田は現在と比べても、そう大きな変化はありません。専修寺を中心に環濠に囲まれた趣のある古い街並み…しかし、まだ若かった私には、その良さ、魅力が分からず、正直にいえば「ずいぶんと静かな町だなぁ」という感じでした。

時は昭和40年頃から続く高度経済成長期が終わり、その後に出現し立し、こんな狭い津市たバブル景気の真っ最中でした。１９８６年～１９９１年の51カ月に及んだ好景気と私の青春時代、ちょうど21歳～26歳の間が見事に一致し、津の町にも驚異的な好景気の波が寄せていました。大門商店街には、デザイナーズブランド、いわゆるＤＣブランドの店が乱立といったイケイケスタイルで町を闊歩。東京のディスコ、「マハラジャ」や「ジュリアナ東京」のように踊り明かしたものです。

終身雇用、年功序列を基本とした雇用情勢も良く、真面目に働きさえすれば誰もが人並みに生活でき、結婚、出産、子育てへの不安も少なく、将来への夢も語りあえる時代でした。

その後、突然訪れたバブル経済崩壊。そしてその後20年以上続く低成長時代…政治、経済…今の日本人は見えない明日をどう生きるか暗中模索しています。この世の春を謳歌した日本は遠い過去の彼方。

私も今年で48歳になり高３の長男を筆頭に３人の息子に恵まれました。人生の折り返しを過ぎ、改めて一身田の町を歩くと、自分の体が自然の一部であることに気づき、今まで見えなかったものに目が行きます。華やかなバブル経済の　遥か以前から偉容を見せる専修寺御影堂の大伽藍や、真っ赤に染まった紅葉や毛無川のせせらぎ、道端にひっそりと咲く花などです。また３人の息子達が通学路にしている小道など…子供がいなかったら決して通ることがなかったでしょう。そう、私の家族やそこに暮らす人々を、いつの時代でも、人生のいかなる時でも変わらない温かさで包んで、守ってくれているのが一身田だと気づきました。今になって一身田の良さや魅力を再認識しています。

この一身田の魅力を次世代に受け渡していくのが私たちの責務かもしれません。

エコキャップ運動

エコキャップ運動は、神奈川県の学生達が「ペットボトルのキャップを捨てるのはもったいない」と云う考えから始まり、織化され全国に広められた。

ペットボトルのキャップを集め、売却した収益金で発展途上国の子ども達にワクチンを送る運動でＮＰＯエコキャップ推進協会（本部・横浜市）が運営する。

約４３０個のキャップで１０円のワクチン代が、２０円で一人の子どもの命が救える。

津市久居戸木町４８５７の１８（株）サンエイ、電話（２５６）２８３９に宅配便で送れば諸手続は同会社が行なう。宅配料は個人負担。

ペットボトルの再資源率は全国平均37％と低い（同ｗｅｂ）。キャップを外し、ラベルを剥がすことで再試減率は高まる。数量に関係なく受け付ける。

地域や団体が集めるのであれば専用の箱もある（箱代は有料）。

貧困に喘ぐ国々の子ども達の命・もったいない・リサイクル・環境問題等について、考え、行動すればまた新たな世界が開かれる。

余談

ちょっと古いが、８月19日の伊勢新聞に三重のことば散策「これぞ三重弁」の記事があった。コラムニストは皇學館大学の神田卓朗さんという大学の先生。三重県の方言について県内出身者の学生４２７人にアンケート調査をした。その結果は？！。これぞ三重弁のベスト⑩を紹介する。

栄光の第一位は、（机を）つる（運ぶ）。第二位は、道路が）つむ（渋滞する）。第三位は、えらい（疲れる）。第四位は、あばばい（まぶしい）。第五位は、とごる（沈む）。第六位は、あかん（ダメ）。第七位は、ごうわく（腹が立つ）。第八位は、ほる（捨てる）。第九位は、ケッタ（自転車）第十位は、～やん（否定の　ない）。以下、ささって（３日後）、ちみぎる（つねる）と続く。

皆さん！いくつ使ってます？！。